

みんなできつくる冬のみち

ひと冬の降雪量が6尺を超える札幌では、雪との付き合いは避けて通ることができません。
今月号では、市が地域の皆さんと協働で行ってきた取り組みなど、雪とのかかわり合いをご紹介します。

地域の皆さんと考える 今までの取り組み

平成17年度から始まった、

地域と創る冬みち事業は、地域の皆さんと区土木部が懇談会を行い、市の除雪の実情を踏まえて、雪対策について考え、取り組んでいくものです。

中央区では、今まで44の町内会と懇談会を行い、地域の課題を意見交換しながら「**除雪課題マップ**」を作成して、地域の皆さんと協働でできることを考えてきました。

凍結路面への対策や公園の雪置き場活用、マナー啓発活動など、地域の特性に応じた取り組みを進めています。

決めた取り組みは、地域の皆さんと除雪事業者や市が役割分担しながら、協力して行い、継続的に検証・改善をしています。

滑り止め砂まき

地域の中で特に滑りやすい場所には、地域の皆さんに砂まきをお願いしています。

公園の活用

地域の皆さんがルールを決めて、雪置き場として公園を活用します。春の雪割り・清掃も行っていきます。

マナー啓発

除雪作業の妨げになる路上駐車や道路への雪出しをしないよう呼び掛けをしています。文書を配布して情報共有を図ったり、のぼりを使った啓発活動を行ったり、区と地域が連携して取り組んでいます。



▲交差点に置かれた砂箱



▲地域の皆さんによる砂まき活動



▲除雪課題マップづくりの様子



▲ルール、マナーを呼び掛けるのぼり



▲雪解け後に公園を清掃



▲遊具に目印ポールを立てて雪入れ

事業の普及啓発

パネル展

区役所や地区センターのロビーでパネル展を行い、事業の概要や除雪に関するルール・マナーの啓発を行っています。



▲地区センターでのパネル展

除雪車見学会

小学生たちが、学校のグラウンドで、除雪車の仕組みや、運転席からの死角の危険性を学びました。

除雪作業中は、危険ですので、除雪車に近づかないようにしましょう！



▲小学校グラウンドでの見学会